

## 2022 年度春学期授業評価アンケート集計結果について

2024 年 3 月 26 日

### 設問について

設問は全部で 10 あるが、問 1 から問 9 までは 4 つのカテゴリー、「A：履修者の自己評価」「B：シラバスについて」「C：担当者と授業について」「D：授業の成果について」に分類される。これに加えて、問 10 として自由記述を設けている。これにより、幅広く学生の意見を聴取することを意図している。

この結果をもとに、科目担当者はシラバスの振り返り項目にレスポンスを記入することになっている。

設問区分	設 問	
A	問 1	私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。
	問 2	この授業の授業時間外の学習時間（授業 1 回ごとの平均） ① 4 時間以上 ② 3～4 時間 ③ 2～3 時間 ④ 1～2 時間 ⑤ 30 分～1 時間 ⑥ 30 分未満
B	問 3	私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。
	問 4	担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。
C	問 5	授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。
	問 6	授業の内容はわかりやすかった。
	問 7	授業の進度は適切だった
	問 8	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。
D	問 9	総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。
自由記述	問 10	授業をよりよくするために、担当教員やこの授業について良かった点、改善すべき点があれば書いてください。

設問に対する回答（問1および問3～問9）は、以下の選択肢から選ぶように求めている。

回答内容	マークシートの番号
強くそう思う（Agree Strongly）	①
そう思う（Agree）	②
どちらかといえば そう思う（Somewhat Agree）	③
どちらかといえば そう思わない（Somewhat Disagree）	④
そう思わない（Disagree）	⑤
全くそう思わない（Disagree Strongly）	⑥

以下、分析は「教養教育科目」「専門教育科目」「言語教育科目」のカテゴリーごとに設問の問1～問9について個別に行う。問10については自由記述のため、上記の3つのカテゴリーをまとめて分析する。

分析結果によるコメントを最後に全体のまとめとしてのコメントを記載する。

## 教養教育科目について

科目登録人数 1972 件のうち、有効回答の割合は 64.6%（昨年度 64.8%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

### 問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が全体の 94.0%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度 94.5%）。

### 問2 この授業の授業時間外の学習時間

教養教育科目の場合、そのほとんどが 1 科目 2 単位であるので、各授業に対して求められる授業外学習時間は 4 時間である。4 時間以上と回答しているのは、全体の 3.6%にとどまっている（昨年度 1.6%）。

### 問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 91.0%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 88.7%）。

### 問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 95.4%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 95.6%）。

### 問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 90.0%であり、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 89.9%）。

### 問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 91.5%であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 91.9%）。

### 問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 94.5%であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 96.1%）。

### 問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言

を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 90.3%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度 90.4%）。

**問9** 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 92.0%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度 92.0%）。

## 専門教育科目について

科目登録人数 1689 件のうち、有効回答の割合は 54.4%（昨年度 64.8%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

### 問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が全体の 96.7%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度 83.0%）。

### 問2 この授業の授業時間外の学習時間

専門教育科目の場合、そのほとんどが 1 科目 2 単位であるので、各授業に対して求められる授業外学習時間は 4 時間である。4 時間以上と回答しているのは、全体の 4.1%にとどまっている（昨年度 2.1%）。

### 問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 95.6%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 93.3%）。

### 問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 97.2%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 94.4%）。

### 問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 94.9%であり、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 88.5%）。

### 問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 93.1%であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 89.1%）。

### 問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 95.3%であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 93.2%）。

### 問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言

を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 92.1%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度 90.8%）。

**問9** 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 96.0%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度 92.2%）。

## 言語教育科目について

科目登録人数 2320 人のうち、有効回答の割合は 73.8%（昨年度 65.5%）。以下、設問ごとに集計結果の分析を行う。

### 問1 私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。

①から③までの回答が全体の 97.5%を占めており、回答したほとんどの受講生が自主的かつ意欲的に取り組んでいることがわかる（昨年度 97.2%）。

### 問2 この授業の授業時間外の学習時間

言語教育科目は一部授業を除き 1 科目 1 単位であるので、1 回に授業に求められる授業外学習時間が 1 時間と定めている。1 時間以下の学習時間と回答しているのは全体のうち 39.3%であることから、約 6 割の学生が十分な学習時間を確保していると思われる。

### 問3 私は、この授業を履修する際、何を学習するかを理解するために、シラバスを読んだ。

①から③までの回答が全体の 92.0%であり、シラバスの事前理解の必要性は十分に学生たちに浸透しているといえる（昨年度 90.2%）。

### 問4 担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。

①から③までの回答が全体の 96.5%であり、問題なく当該設問に対しては対応できていると思われる（昨年度 96.3%）。

### 問5 授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。

①から③までの回答が全体の 90.0%であり、当該設問については問題なく対応できていると判断する（昨年度 89.9%）。

### 問6 授業の内容はわかりやすかった。

①から③までの回答が全体の 94.1%であり、当該設問に対して十分に対応できていると判断する（昨年度 91.3%）。

### 問7 授業の進度は適切だった。

①から③までの回答が全体の 95.8%であり、受講生のほとんどが「適切」であると判断しているといえる（昨年度 95.8%）。

### 問8 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言

を与えたり質問に答えたりしてくれた。

①から③までの回答が全体の 96.1%であることから、授業担当者は授業内外において適切な教育環境の維持に努め、その成果が表れていると思われる（昨年度 95.1%）。

**問9** 総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。

①から③までの回答が全体の 96.5%であり、学生にとって適切な授業提供が行われていると判断できる（昨年度 95.8%）。

## 自由記述について

問10 授業をよりよくするために、担当教員やこの授業について良かった点、改善すべき点があれば書いてください。

自由記述にコメントを付してくれていたのは有効回答数 6043 件のうち、58.6%であった。昨年度が 47.4%であり、コメントの割合が増加している。

コメントのうち、約 53%は「特にありません」といったものであり、また約 30%が教員に対する謝辞であった。したがって、具体的なコメントを残してくれている割合は、およそ 2 割弱であるが、その大半は授業の内容や教員に対して好意的なものだった。特に、授業の進め方や内容について好意的なコメントが多かった。

批判的な内容のコメントについてであるが、昨年度と比較してみても減少している。たとえば一部の教員の授業に対して、授業の進め方や言動等について改善を求める声があったが、教員各自が昨年度のアンケート結果をふまえ、その改善に努めたものと思われる。また教育支援委員会（現在の学生委員会）においても、教員と科目の適性を勘案して担当科目の選別にあったことも奏功しているのではないかと考えている。

また、昨年度は学内の設備に関する批判的なコメントが多かったが、今年度はほとんどみられなかった。特に、インターネットの接続環境が改善していることから、この点についての学生の不満が減少したのが大きな要因ではないかと思われる。

しかしながら、一部ではあるものの、教員からの発言を快く思わないもの、授業内における指示の不徹底などについてのコメントもあった。これらに関しては、教育支援部で協議を行い、必要に応じて担当教員と面談を行い、改善を求めている。

## コメント

全体としては肯定的な回答がいずれの設問においても9割を超えており、大学としては十分に対応できていると判断できる。例年「言語教育科目」の数値が高いのだが、今年度は「教養教育科目」および「専門教育科目」でも高いレベルの数値を示していることは特筆すべきであろう。とりわけ、「専門教育科目」の各設問で、昨年度を超える数値を示していることはすでに述べたとおり、教員による授業改善の結果が表れているものと思われる。

自由記述の回答に関しては、学生委員会および学生サポート課において個別に精査をして、必要に応じて担当教員と面談を行い、問題の解決を目指すことになっているが、前述のとおり、今年度は例年と比較して批判的なコメントが少なかった。とはいえ、改善を求める声がないわけではないので、個別に対応していかねばならない。

今後このアンケートの結果をよりよく活用するための方策として以下の点を関連部署で検討を行う。

### ① 回答率の向上

回答率が全体でも6割にとどまっていることから、向上させる取り組みを行う必要がある。

### ② 授業外学習時間の確保

特に「教養教育科目」「専門教育科目」における数値が低いことに注視し、これを向上させる方策を検討する。

### ③ 担当者からのフィードバック

現在、担当者は授業の振り返りを記載することになっているが、これをより有効に活用する手段を検討する。

以 上